令和3年 9月22日（水曜日） 京阪電車開業111周年

開業111年 人の暮らしに夢と希望と信頼と 京阪電車開業111周年 ～渋沢栄一と京阪電車～

滋賀大学教育学部
附属小学校6年
柴田桃花

〈近代日本経済の父 渋沢栄一〉

大河ドラマ「青天を衝け」の主人公・渋沢栄一。その渋沢を創立委員長として、京阪電気鉄道は1910年に開業しました。京街道沿いに京都・大阪をつなぐ鉄道の敷設を決して諦めず、3度の挑戦を経て京阪を設立しました。国営の東海道線だけでは、経済発展著しい近畿地方の交通網はいずれパンクする。民間鉄道を敷設すればそれは解決し、さらには地域の発展と人々の暮らしに貢献できる、そうした渋沢の熱い想いが京阪の力になっています。

〈受け継がれる渋沢の思想〉

こうした渋沢の行動を支えたのは企業は利益だけでなく、国や人類の繁栄に責任をもつという「道徳経済合一説」、そして困難なことにも進んで取り組む事、または新しいものを進んで取り入れるという「進取の精神」です。この考え方は、京阪グループの経営理念「京阪グループは、人の暮らしに夢と希望と信頼のネットワークを築いて、快適な生活環境を創造し、社会に貢献します。」にも生きています。

京阪沿線 渋沢栄一 ゆかりの地

生涯約500社の会社、約600の病院・その他の施設の設立・経営に関わった渋沢栄一は、関西でも活躍。京阪沿線にもゆかりの地は多い。

〈大阪紡績会社（現・東洋紡）〉

Ⓐ

1882年設立
紡績会社を設立・育成

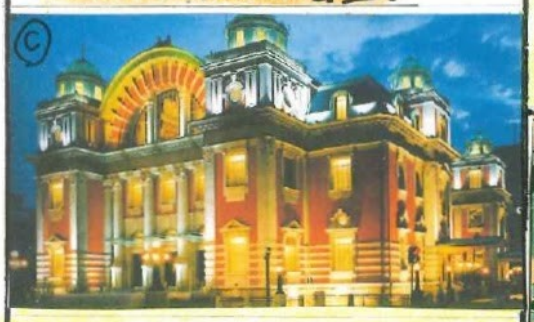
〈大阪株式取引所（現・大阪取引所）〉

Ⓑ

初期の株主名簿に渋沢の名前がある。

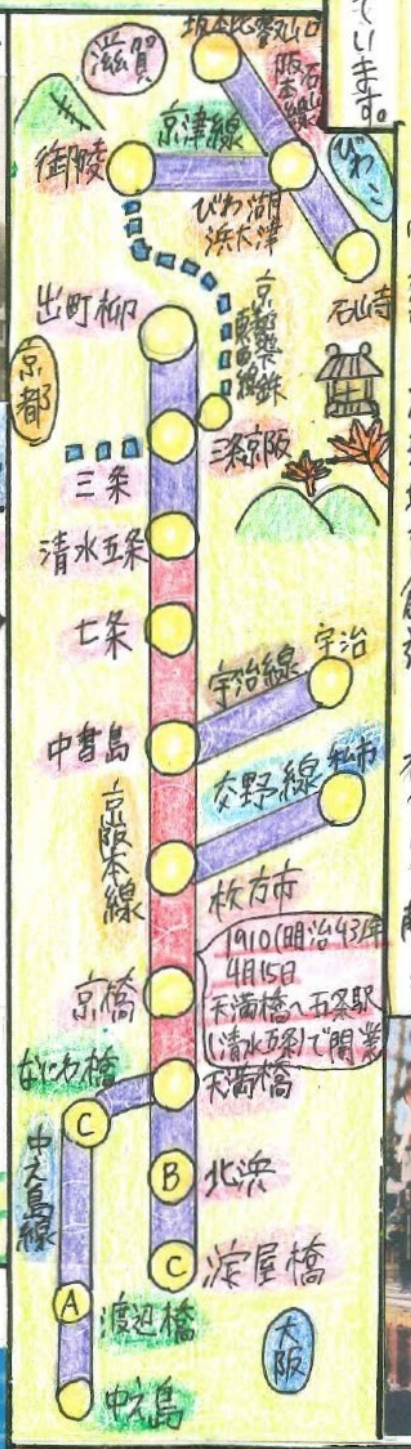
〈大阪市中央公会堂〉

Ⓒ



公会堂会案者に助言と支援

2024年度に一新する日本銀行券



京阪電気鉄道株式会社は、1910（明治43）年4月15日に大阪・天満橋－京都・五条間で鉄道営業を開始し、2021年4月15日に開業111周年を迎えた。1913年、宇治－中書島間が開業、1925年 大津線を合併した。1934年、天満橋－浜大津間を直通運転するために「びわこ号」が製造された。

◀開業日の天満橋付近

1913（大正2）年
吉田初三郎「京阪電車御案内」

〈編集後記〉

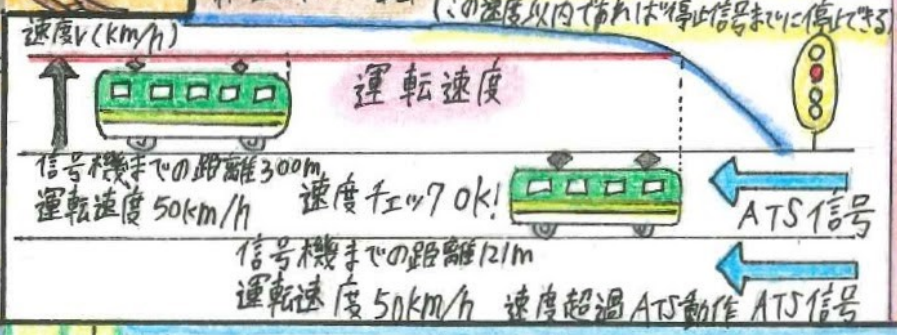
私が今回新聞を作って、一番心に残った事は、渋沢栄一が近畿の人たちの幸せのために、どんな困難をも乗り越えて、京阪電車を創った事です。この想いが今の京阪電車にも受け継がれているからコロナ禍でも安心して京阪に乗って通学できているのだとわかりました。なんだか、強い人が優しく弱い人の幸せを守るお話の"鬼滅の刃"に似ていて、嬉しくなりました。"菌滅の刃"ありがとう、京阪電車さん!!

「びわこ号色塗装」車両の運転

日本で最初に連接構造を採用した車両の「びわこ号」、1970年に定期運行は終了したが、2020年9月14日から「びわこ号色塗装」車両が石山坂本線で運転されている。

〈「安全安心」のさらなる向上を目指した施策サービスを展開〉

- 多情報連続式自動列車停止装置（ATS）の京阪線全線への導入
- 新造車（13000系5次車）を順次導入、「戸挟み検知装置」「車内防犯カメラ」などを新たに設置
- 衛生対策の強化など、サービスを拡充



多情報連続式自動列車停止装置（ATS）の概要

13000系の導入（5次車）

安全性の向上や環境への配慮、バリアフリーへの対応に主眼を置いて開発した新型車両13000系車両を導入。また、車いすスペースや液晶型車内案内表示器、誘導鈴、ドアチャイム、開閉予告灯の設置、車内の刷新など6000系車両のリニューアル、「広告用デジタルサイネージ」の設置、駅トイレ手洗の蛇口自動センサー化など、アフターコロナ、ウィズコロナ時代に即したサービスを拡充。